

令和3年度第1回鎌倉市青少年問題協議会 議事概要

【日 時】 令和3年10月19日（火）10時30分から11時30分

【場 所】 鎌倉市役所 本庁舎 201会議室

【出席者】 敬称略

(1) 委員 13人

別紙名簿のとおり。

(2) こどもみらい部

藤林聖治（こどもみらい部長）

(3) 事務局 4人

小林瑞幸（青少年課長）、芳賀弓子（課長補佐）、田中翔太（担当係長）、渡邊千晶（事務職員）

【資 料】

1－（1）青少年問題協議会委員名簿

1－（2）子ども・若者育成プラン(改訂版) 事前配布

1－（3）青少年の居場所づくりについてアンケート調査(案) 事前配布

【議 題】

(1) 会長・副会長の選出について

(2) 子ども・若者育成プラン（改訂版）の報告について

(3) 青少年の居場所づくりについて（成人のつどいアンケート調査について）

概要については以下のとおり。

(1) 事務局挨拶・自己紹介

・事務局及びこどもみらい部長挨拶ののち、各委員が自己紹介を行った。

(2) 会長・副会長の選出について

・会長は、沖縄大学名誉教授の加藤委員を選出した。

・副会長は、市立中学校代表・市立深沢中学校長の河合委員を選出した。

(3) 子ども・若者育成プランの改定について

・事務局から、令和3年4月に施行した、「鎌倉市子ども・若者育成プラン（改訂版）」について説明を行った。

(4) 青少年の居場所づくりについて（成人のつどいアンケート調査）

・事務局から、青少年の居場所づくりに係る、成人のつどいで実施予定のアンケート調査について説

明を行った。

各委員からのご意見、ご提案は次のとおり。

加藤会長：子ども・若者育成プラン改訂版の報告、成人のつどいアンケート調査の内容について意見があればお願いしたい。

石井委員：プラン 28 ページ記載の目標 5 の「まち」の表記の意図は何かあるか。

小林課長：プラン 27 ページ記載の「子どもがのびのびと自分らしく育つまちかまくら条例」(抜粋)に、「まち」と表記しており、既定のイメージに当てはめない形で表記したのかと推察する。本プランはそれに倣う形で表記している。

河合委員：鎌倉市成人のつどいアンケート結果のうち、プラン 6 ページの「3 悩みや困っていることはありますか」という質問項目について、回答数が少ないため、回答数を上げる工夫が必要だと思う。スマートフォンもあるため、成人のつどい当日その場で回答もできるし、回答したら何かあげる等したらどうか。

小林課長：神奈川県 e-kanagawa 電子申請の Web 回答フォームがあるため、検討はしたが、最終的には招待状に同封し、当日回収という形にした。当日配布して回収することも検討したが、当日の新成人の空気感を考えると、事前に送付して、当日回収が望ましいということになった。当日は、受付時に回収し、持参していない新成人については、受付脇で回答できることも考えている。

下山委員：過去に実際、成人のつどい当日にアンケート調査を実施したが、当日の空気感としては、新成人の子は、みな楽しくなっていてあまり内容を聞いていないと感じた。書面と電子の両方で実施してはどうか。

千代委員：当日回収に拘らず、期日を定めて回収してはどうか。スマートフォンでできないと子どもたちはあまり書面を見ないと思う。

佐々木委員：データの回収率の向上なら書面でも電子でもいいと思うが、回答したら何かもらえるというようにした方がより上がると思う。

小林課長：招待状の書類に出席確認用の二次元バーコードを記載しているため、そこにアンケートも追加することも検討したが、出席確認は記名式、アンケートは無記名なので、アンケートの意味が無くなってしまうことからその方法は断念した。

林委員：アンケート用紙を招待状の中に同封することはわかるが、文字だけだと味気ないと思う。また、アンケート調査を実施することの目的、現状のアピール等何かもう 1 枚あれば、回答する側からすると事前情報無しでの回答にならずに済むと思う。

長谷川委員：大前提の確認になるが、プラン 28 ページの目標と施策は、「子ども・若者育成プラン」の目標と施策で合っているか。アンケート調査を実施することで、居場所について実態の把握ができるということか。

小林課長：その通り。

杉並委員：コロナ禍の今、地域のイベント等に参加したくてもできないこともある。教育実習も実施でき

ていないこともある。アンケート調査の結果を例年と比較するのはいかがなものか。

石井委員：アンケート用紙に「障碍」と表記されている。「障がい」と表記しているところもあるので、全庁的にどうなっているのか。

小林課長：「障碍」の表記は、平仮名表記の「障がい」に修正する。

加藤会長：アンケート調査の回答数について、高等学校として萩谷委員いかがか。

萩谷委員：高校もアンケート調査に協力することはできるが、本プランは鎌倉市のプランであり、深沢高校については生徒の半分が藤沢市在住なので、回答数として計上できないのではないか。

加藤会長：警察の方から見ているかがか。

中西委員：実際に現場で青少年と関わる中で、居場所として多いのは、「電気が取れる・Wi-Fi環境が整っている・灯りがある」という、スマートフォンが充電できるところが多い。また、このような場所に集まった時も、それぞれがスマートフォンを操作している状況である。災害時にボランティア等で来てくれることがあるが、作業が終わるとバラバラになり、それぞれがSNS等投稿したり、操作したりしている。その場で、知り合った若者同士のやり取りがなかなかない。

加藤会長：現場にいるからこそ見えてくる視点だと思う。

千代委員：アンケート用紙の「Q6 地域のお祭りや行事に参加しますか。」とあるが、いきなり「お祭り」が出てくるのは流れとして唐突過ぎるのではないか。また、若者に限らず、Wi-Fi環境は気になり、最低でもWi-Fi環境が整っていることが居場所として必要なかと思う。

加藤会長：どんな設備・道具があるといいかという質問があるといいかもしれない。

短時間だったが、貴重な意見をいただいたと思う。事務局はいただいた意見をアンケートに反映してもらいたい。

以上